

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第30号 平成26年11月8日

先制、ダメ押しでチームとして勝利！

政司熱投5回を自責ゼロで勝利に貢献！

	1	2	3	4	5	6	7	R
B	0	0	0	1	0	0	0	1
G	3	0	0	0	0	2	×	5



11/8(土) SCLRT準決勝を松戸運動公園野球場に向向き、ブルーサンダース戦を行った。天候が非常に気になったが、無事ゲームをする事が出来、先ずは安心。ゲームは後攻、先発を託されたのは政司、暑い時期が過ぎた事及び、予選での雪等を晴らすためにも、彼のピッチング内容にチームが注力した。その気になる立ち上がり、先頭を4球で空三振に斬る。しかし、次打者には四球を与え出塁を許す。が、崩れる事なく、後続を斬り、初回を終えた。その裏の攻撃、先制すれば火がつく事が分かっている我が打線。従って、何か何でも先制する、という意気込みで攻撃に臨んだ。先頭の哲也が2球目を振り抜くと、打球は三遊間を抜く安打で出塁、そして二番深沢の初級に二盗を決め、無死二塁と先制を演出。ここで、深沢が犠打を決め、一死三塁と思っが、野手の送球がそれ、結果塁上に残る。深沢も初球に二盗を決め、無死二・三塁とした。三番の内野ゴロの間に、哲也が生還し1点を先制、更に、棚川のショート正面の強いゴロを野手が失策、この間に深沢が生還し2点目。そして久々の浅沼がレフト前に運び、この打球で棚川が二塁より、一塁生還し初回から3点を挙げ、有利にゲームが運べる展開とした。二回には、先頭にBHを決められ出塁を許すも、棚川の送球で三盗を許さず。3回にも四球で出塁させたが、これまた後続を凡打に斬り、依然三塁を踏ませないピッチングを見せる。しかし4回にやや動きが。この回、先頭にレフト前に運ばれ出塁を許した、と思った瞬間、野手がトンネル、打球は転々と外野フェンスまでに。この間に打者走者は一挙ホームインし、1点を返されてしまった。しかし、その裏にチャンスが。先頭の昌平がセンターオーバーの2ベースで出塁、次打者棚川の打球は、レフト頭上を越す飛球かと思っが、野手が好捕。続く浅沼の打球も強烈なサード正面のライナー、更に、次打者の祐介もレフトに運びも、野手正面という、非常につきがない内容で残塁とした。翌5回で政司はマウンドを降りたが、内容は、被安打3、与四球2、自責0という素晴らしい内容で、後に託した。そして、いよいよ終盤の攻撃、先頭は倒れ一死となったが、続く昌平、棚川が安打と盗塁一死二・三塁とした。ここで浅沼が放った打球は詰まり気味の三塁ゴロ、これを野手が焦っている間に昌平がホームインし、嬉しい追加点、更には、祐介がスクイズを決め、5点目を挙げ、今日のゲームの勝利くっ引き寄せた。そして最終回、三者凡退に斬り、RT決勝進出を決めた。振り返ってみると、

先ず、目的を持って、初回に得点出来た事。更には、最終回にも同様な形で得点出来た。それを支えたバッテリー、特に捕手@棚川は、ボールを散らす配球で政司をリードした。しかし、そんな中、2つのプレーが宿題となった。失点した際の守備であったが、走者がいない状況の中の外野への打球。絶対にやってはいけないのは、余計な進塁をさせない事。しかし、残念ながら後逸。後から話した際には、自身の口から、腰を落として捕れば良かった、と、場面に対して理解の有る言葉。もう一つは進塁。外野へ大きく上がった飛球へのセオリーはハーフ、しかし、落とすだろう、取れないだろう、と想定され帰塁せず。結果好捕に繋がった。しかし、だろうではなく、セオリーで行動していたら、タッチアップで進塁が出来たはず。そして三塁に走者を出した投手へのプレッシャーに繋がる事は大きなので、中押しにも繋がったと思う。終わってみてから、あの時になー、と感じるなら、普段から感じてゲームをすること、更には、単にコーチャーボックスに入るのではなく、この場面はどうする、と考える事が、悔いのないゲームに繋がると思う。野球は点の取り合いのゲーム、単に安打が続くかな、と祈るゲームをするのではなく、如何に相手の嫌な事が多く出来るかが、キーになる。今期も残すところは、数える程になりましたが、今期を終えて、チーム・個人として満足いく内容になるためにも、場面を考える習慣をつけましょう！